



美しい 県土づくりNEWS

2022年

7月

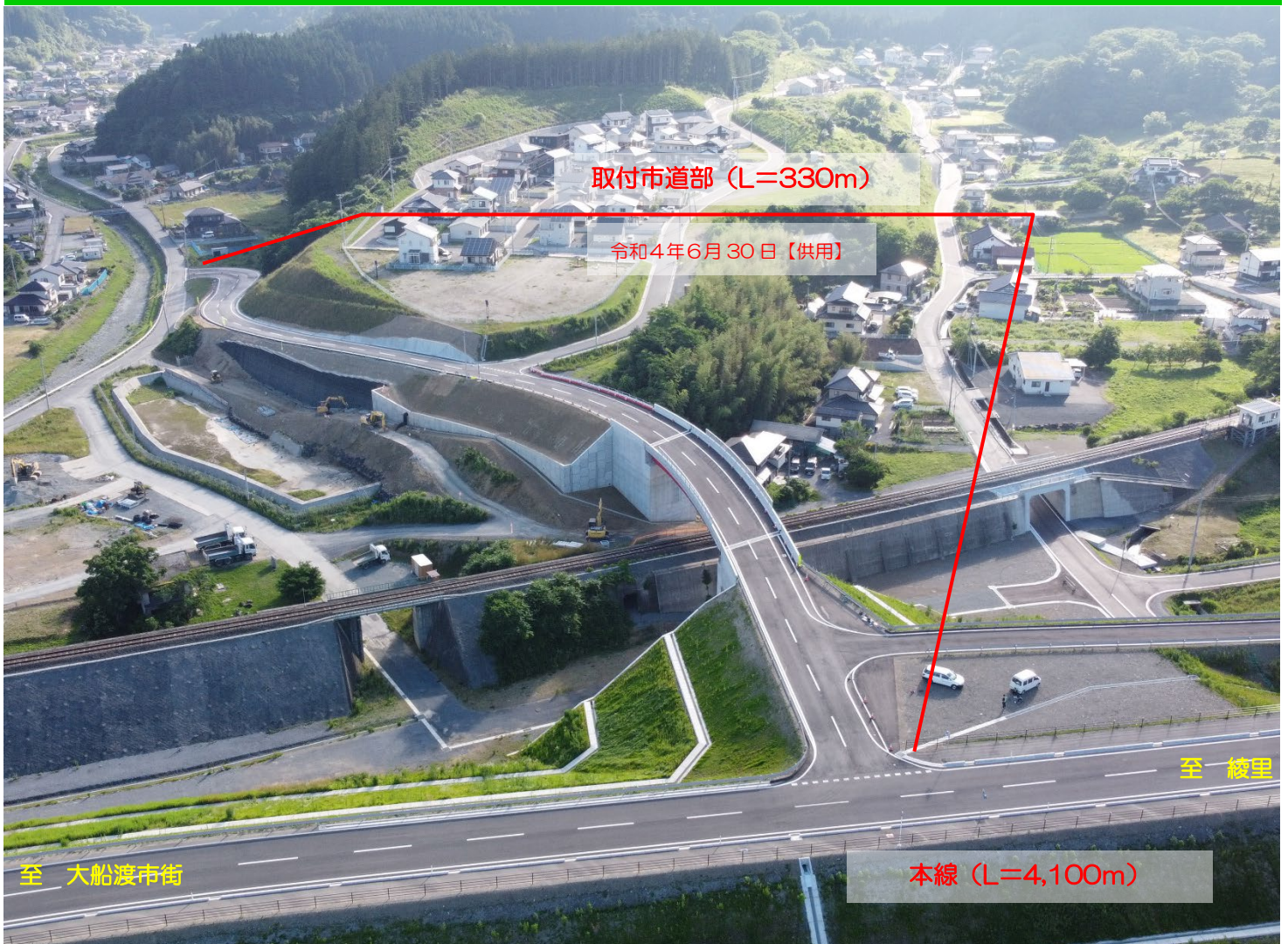
岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第216号
令和4年8月4日発行
編集 県土整備企画室

目次

- 2 【まちづくり連携道路】
主要地方道大船渡綾里三陸線赤崎工区が全線供用!!
- 4 【復興関連道路】
一般県道丸森権現堂線下船渡工区が全線供用!
- 6 【令和元年台風第19号の土砂災害対策施設整備】
砂防堰堤工事が進んでいます!!
- 8 『けんせつ小町部会』提言書交付式を開催しました!
- 9 築川ダム竣工1周年 地域振興の取組について
- 11 オンライン下水道・浄化槽出前講座を開催しています!

三陸復興

【主要地方道大船渡綾里三陸線赤崎工区】 取付市道部を含めて全線供用開始!!



【まちづくり連携道路】

主要地方道大船渡綾里三陸線 赤崎工区が全線供用！！

～ 県内のまちづくり連携道路が全て完成しました！！～

沿岸広域振興局土木部 大船渡土木センター

県が「まちづくり連携道路事業」として整備を進めている**主要地方道大船渡綾里三陸線赤崎工区**について、**取付市道部（延長 330m）**を令和4年6月30日に供用開始しましたので、お知らせします。

今回の開通により、令和4年3月15日に供用開始した**県道本線部（延長 4,100m）**と併せ、**赤崎工区**の**全区間が供用**となりました！！

大船渡市のまちづくり計画を支援する形で集落の高台移転とあわせて浸水区域を回避する道路を整備したことにより、安心して安全で円滑な交通が確保され、主要地方道大船渡綾里三陸線の**沿線各集落の被災時における孤立解消**に寄与することが期待されます。

なお、本工区の完成により、**県内のまちづくり連携道路が全て完成**となり、**県内他事業の完成区間と一体となり、三陸沿岸地域の復興を力強く後押し**することが期待されます！

【赤崎工区】全景写真（起点部側）



【事業概要図】



【取付市道部 開通後の状況】



【整備効果】

- ・大船渡市のまちづくり計画を支援する形で集落の高台移転とあわせて、浸水区域を回避する道路を整備したことにより、安心で安全で円滑な交通が確保される。
- ・主要地方道大船渡綾里三陸線の沿線各集落の被災時における孤立解消に寄与。

【復興関連道路】

一般県道丸森権現堂線下船渡工区が全線供用！

～ 県の復興関連道路が全て完成しました！！～

沿岸広域振興局土木部 大船渡土木センター

県が「復興関連道路」に位置付け整備を進めてきた「一般県道丸森権現堂線下船渡工区」の防潮堤隣接区間（延長 120.0m）の工事が完了しました。これにより、平成 26 年度から事業を進めてきた本工区（延長 2.1km）が令和 4 年 7 月 28 日に全線供用開始となりました！

本工区の供用開始により、県が三陸復興道路整備事業（復興道路・復興支援道路・復興関連道路）及びまちづくり連携道路整備事業で整備を進めてきた復興道路等（40 路線 93 箇所、整備延長約 187km）が全て供用を開始しました。

【防潮堤隣接区間の完成状況（今回供用区間）】



【全線開通した丸森権現堂線下船渡工区 全景】



【事業概要図】



【整備効果】

- ・ 大船渡魚市場、水産加工施設へのアクセス性向上による水産業の振興に寄与。
- ・ 隘路区間、地盤沈下による浸水の解消、歩道設置による走行性・安全性の向上。
- ・ 防潮堤事業等の復興事業と一体となって東日本大震災後の新市街地の形成に寄与。

大船渡土木センターSNS(Twitter・Instagram)でもご紹介しています！

・大船渡土木センターSNSでは、全線開通した丸森権現堂線の走行動画を公開しています。



ぜひご覧ください！



Twitter



Instagram



【令和元年台風第19号の土砂災害対策施設整備】

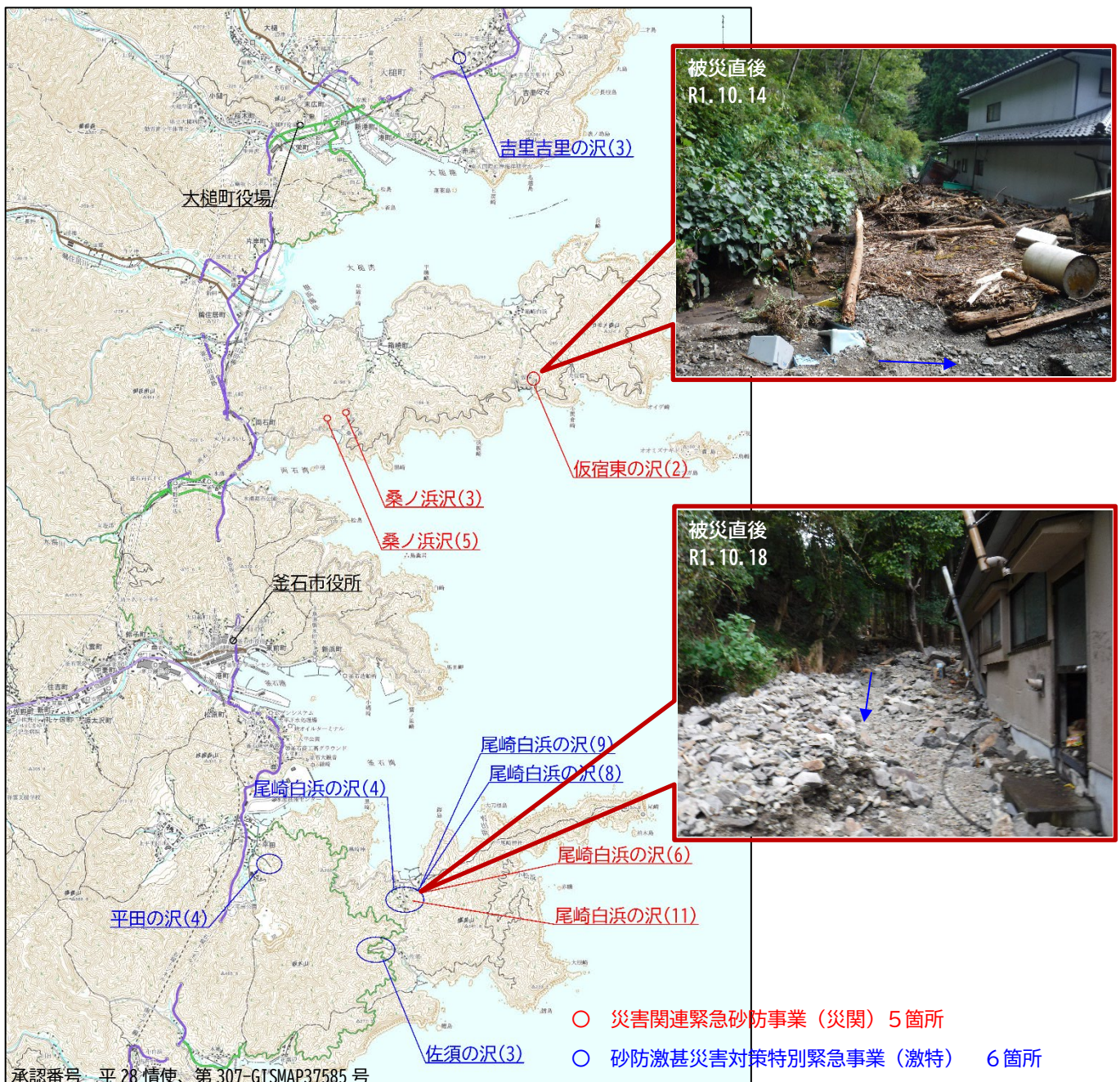
砂防堰堤工事が進んでいます！！

沿岸広域振興局土木部

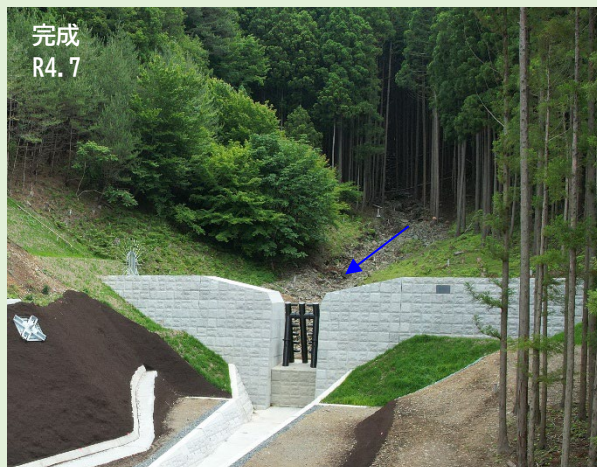
令和元年台風第19号に伴う豪雨により、岩手県内では98件の土砂災害が発生し、このうち釜石地域では、釜石市で27件、大槌町で5件と非常に多くの土砂災害が発生しました。このうち、土石流による家屋への被害の大きかった箇所や、今後の出水により下流に著しい被害を与えるおそれがある箇所において砂防堰堤工事を進めています。

沿岸広域振興局土木部が実施している砂防堰堤工事は11箇所のうち、令和4年7月末時点で、尾崎白浜の沢(6)、桑ノ浜沢(3)の2箇所の砂防堰堤が完成しました。残りの9箇所においては、令和5年度の完成に向け工事を進めています。

【位置図】



尾崎白浜の沢(6)砂防堰堤工事 (釜石市平田地内)



ドローンによる上空からの状況！



また、地元住民に砂防工事に対する理解を深めていただくため、**現場見学会の開催**や砂防事業の取組を記載した**広報誌を配布**しています。



今後も地元住民の皆様の安心・安全を支えるために、ハード・ソフト一体となった総合的な土砂災害対策を推進していきます。

『けんせつ小町部会』 提言書交付式を開催しました！ ～誰もが働きやすい建設業界を目指して～

建設技術振興課

岩手県では、平成26年5月に「いわて女性の活躍促進連携会議」を設置し、女性活躍推進のための各種施策、社会全体への理解促進など官民連携した取組を進めています。

『けんせつ小町部会』は、平成29年7月に本会議に設置された5部会の1つであり、一般社団法人岩手県建設産業団体連合会の構成団体及び岩手県で組織されています。

『けんせつ小町部会』では、建設業界の担い手確保のため、女性の入職促進と定着を目的に、女性がやりがいを持って働くことのできる魅力のある職場環境の整備と、建設業のイメージアップの観点から、女性の活躍支援のための取組を行ってきました。

この度、これまでの活動を通して明らかになった課題を抽出し、その解決に向けて建設業界に關係する全ての方々に対して共有していただきたいことを提言として取りまとめました。

基本的なコンセプトは、性別や職歴に関係なく「誰もが働きやすい建設業界」を目指し、業界の一層の発展を願うものです。

『けんせつ小町部会 提言書』 交付式（7月7日）



提言1 建設業界への女性定着に向けた理解の促進

- ・女性定着に関する企業の理解促進
- ・経営者の意識改革

提言2 働きやすい環境の整備

- ・職場の環境整備の促進
- ・風通しの良い企業文化の醸成

提言3 建設業のイメージアップと情報発信

- ・建設業の魅力とやりがいの発信

7月7日、提言書交付式を開催しました。
けんせつ小町部会 上野会長・工藤副会長から、岩手県建設産業団体連合会の向井田会長、田中県土整備部長に対して提言書を手交しました。
県は、女性や若者をはじめ、誰もが働きやすい建設業界となるよう、引き続き「けんせつ小町部会」等を通じて、建設業に従事する方々と協力して取り組んでいきます。

築川ダム竣工1周年 地域振興の取組について

盛岡広域振興局土木部

築川ダムは、築川の治水対策、既得用水の取水や河川環境の保全に必要となる水の供給、盛岡市及び矢巾町への水道用水の供給、企業局による水力発電を目的として建設された多目的ダムです。

令和3年7月18日の築川ダム竣工式から早くも1年が経過しました。

○ 管理における課題と創意工夫

築川ダムは、盛岡市街地近くに新しく建設されたこともあり、ダムを訪れ、ダムカードの配布を希望される方が多くいらっしゃいます。しかし、カードの配布場所である盛岡地区合同庁舎まではダムから車で25分ほどかかること、また、ダムには来訪される方が利用できるトイレや、湖面にアクセスできる道路がないなど利便性の改善が課題となっています。

そこで、来訪者も利用できるトイレがある最寄りの産直施設と、親水公園がある近隣の綱取ダムとの連携による利便性向上を模索しており、まずは、ダムカード配布の利便性を高めるため、産直施設に築川及び綱取のダムカード配布をお願いしました。

カードの配布場所が増えることで、ダムカード希望者の利便性が向上するだけでなく、産直施設への集客アップの相乗効果が表れ始めており、カード配布枚数も倍増しています。

更に、産直では令和4年7月中旬から8月下旬にかけて、竣工1周年に併せた新メニューの料理を提供することでダム施設を活用した地域振興への取組を始めました。



<見学会の様子>



<産直「てんぐの里106」内、農村レストラン「味のてんぐ」によるダムにちなんだ特別メニュー>

○ 今後の取組

地域と連携した利便性や魅力を向上する取組は始まったばかりですが、それぞれの施設の魅力が高まれば他の施設への更なる波及効果が期待されます。

築川ダム見学会におけるドローンを使った記念写真の撮影や「森と湖 in 網取 2022」では、市販のセロファン紙を加工した自作のカラー照明による「ライトアップ」や「夜の施設見学会」を開催するなど、更なる創意工夫により地域活性化に取り組んでいきます。



オンライン下水道・浄化槽出前講座を開催しています！

下水環境課

下水環境課では、環境教育活動への支援の一環として、下水道や浄化槽の汚水処理施設の普及啓発活動を実施しており、小学生等を対象に平成20年度から公益財団法人岩手県下水道公社と連携して「下水道出前講座」、平成21年度から公益社団法人岩手県浄化槽協会と連携して「浄化槽出前講座」を開催しています。

<下水道・浄化槽出前講座について>

下水環境課、下水道公社及び浄化槽協会の職員が県内の小学校を訪問し、水の循環や汚水処理の大切さについての講義を行っていましたが、現在は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、オンライン形式に切り替えて講義を行っています。本来であれば、実際に微生物の顕微鏡観察などを行いますが、オンライン形式では、顕微鏡観察に代えて下水道に関するクイズを多数用意し、児童が楽しみながら汚水処理について理解を深められるよう努めています。

下水環境課では、年間25校の出前講座の実施を目標としており、今年度は7月25日現在、滝沢市立篠木小学校など8校434名の児童に講義を行っています。さらに多くの出前講座を開催できるように、引き続き小学校等への周知を図っていきます。

今後も、生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止していくために、「水の循環と汚水処理の大切さ」を子供たちに伝え、汚水処理施設の普及や汚水処理人口普及率の向上につながるよう取り組んでいきます。

<講座開催の様子>



汚水処理のしくみなどについて、下水処理場内や微生物の様子を動画で説明し、児童にクイズを出しながら講座を行っています。

下水処理場では微生物を利用して汚水を処理していることや、日本にある下水管を1本につなげると地球から月まで届く長さとなることを説明すると、児童はとても驚いていました。